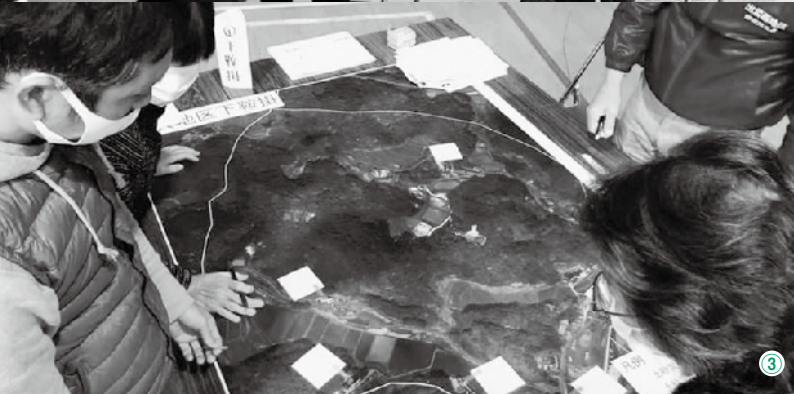


防災士になるには

「防災士養成講座」の受講と、「資格取得試験」の合格が必要です。講座日程が決まり次第、自治区文書で案内予定。

資格取得にかかる経費は町が負担(県内開催分のみ)。これまでに40人が防災士になっています。

■問合せ 総務課 電話76-2211



「防災士、東良太」
中山間地域研究センター主任研究員の東良太さんの研究は、いわゆる「地域づくり」。「家族と地域の姿が時代と共にどのように変化しているか」を研究しています。
そんな東さんが「防災士」になったのは約3年前。自治会長だった当時、自治会回覧文書の「防災士養成講座」が目にとまったのがきっかけでした。
「いつ起こるか分からない災害に対応できる力を付けたい」という想いで資格試験に挑

「僕の役割は「伝えること」
東さんが防災士資格試験に挑む少し前、九州北部豪雨をはじめとしたゲリラ豪雨や線状降水帯による豪雨が多発。東さんは災害ボランティアとして被災地に足を運んでいました。被災地で耳にしたのは

「事前に備えておけば、もっと防災に関心を持っていれば」という声。この時のこの声が東さんを防災士にした理由の一つです。
防災士になってから、安心・安全に暮らせる地域づくりに欠かせない要素として「防災」を捉えるようになった東さん。今では町内はもちろん、県内各地で防災研修会を開催し、県内外の取り組み事例を紹介したり、参加者が楽しく学べるようにゲームを取り入れたりして、「これからの防災」を伝えています。

①避難所運営ゲーム「HUG」

みんなで避難所運営を考えるカードゲーム。避難所で起こりうるさまざまな出来事に、どう対応していくかを疑似体験する。

■写真：奥出雲町八川地区(提供：奥出雲町)

②クロスロード

災害時のジレンマを体感できるゲーム。さまざまな立場から災害を考え、防災につながる想像力・行動力を鍛える。

■写真：上米島サロン

③支え愛マップ

地域ごとに大きな地図を広げ、要支援者を把握し、災害時の個人・地域の動きを確認する。災害時のみならず、日常の買い物や交通などの問題も一緒に考える。

■写真：奥出雲町三沢地区(提供：奥出雲町)

④いのちを守るカドリル

5つの指標「自分」「家族」「仲間」「家」「地域」で災害対応力を測定するドリル。自分の弱点を知り、今後すべきことを明確にする。

■写真：飯南町防災士連絡会

備えていても、備えていなくても、突然やってくる災害。
いつ、どこで起こるか分からないからこそ、今できることをする。
そんな気持ちで災害と向き合う防災士を追いかけました。

忘災から防災へ

今、私たちにできること



●東良太さん/1986年神戸市生まれ。高校までを神戸市で過ごす。立命館アジア太平洋大学、九州大学(修士課程)卒業、熊本大学(博士課程)中退。アマタ持続可能経済研究所を退職後、中山間地域研究センター企画情報部地域研究科主任研究員となる。

■問合せ 中山間地域研究センター企画情報部地域研究科 電話76-3846